

平成20年7月の熱中症による救急搬送の状況

総務省消防庁では、平成20年7月の熱中症による全国の救急搬送の状況をとりとまとめたので、その概要を公表します。

1 背景

平成20年は、各地方（奄美地方を除く）で昨年より4日から23日早く梅雨明けとなり、7月に入ってから、全国各地で連続して真夏日（日最高気温が30度以上の日）が観測されるなど、厳しい暑さの日が続き、昨年より熱中症による救急搬送人員が増加したものと思われます。

このため、総務省消防庁では、昨年、大都市等について行った熱中症による救急搬送状況調査を全国に拡大して行いました。この度、結果がまとまったので公表します。

【別添資料】

- [平成20年7月の熱中症による救急搬送状況（都道府県別）（別添1）](#)
- [熱中症による救急搬送比率（別添2）](#)
- [平成20年7月の熱中症による救急搬送状況（日別）（別添3）](#)
- [平成20年7月の熱中症による救急搬送状況（年齢、傷病程度別）（別添4）](#)



(連絡先)
消防庁救急企画室
担当：松野補佐、島田係長
電 話：03-5253-7529
FAX：03-5253-7539

2 ポイント

- ・ 平成 20 年 7 月の全国における総救急搬送人員は 412,660 人で、そのうち熱中症による救急搬送人員は 12,747 人 (3.1%) でした。これは、平成 19 年 7 月の熱中症による救急搬送人員 3,645 人の 3.5 倍となっています。
また、熱中症による救急搬送人員の総救急搬送人員に対する割合について、平成 20 年 7 月と平成 19 年 7 月を比べると、宮城県と沖縄県を除く、45 都道府県で増加しています。
- ・ 全国各地の都市で真夏日が観測された 7 月 5 日から 6 日にかけて急増し、東海地方から東北北部が梅雨明けとなった 19 日以降は各地で猛暑日 (日最高気温が 35 度以上の日) が続いた期間において、熱中症による救急搬送人員が多くなっています。
- ・ 熱中症による救急搬送人員の年齢区分をみると、成人が 5,382 人 (42.2%) と最も多く、次いで高齢者 (65 歳以上) が 5,070 人 (39.8%) になっています。特に、高齢者は、人口構成割合 (統計局人口推計、平成 20 年 7 月) の 21.9% と比べると、熱中症による救急搬送人員の比率が高いことがわかります。
- ・ 熱中症により搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く 7,759 人 (60.9%)、次いで中等症 4,463 人 (35.0%)、重症 366 人 (2.9%) の順となっています。また、死亡も 33 人 (0.3%) 報告されています。
 - ※ 軽 症 : 入院を必要としないもの
 - 中等症 : 重症または軽症以外のもの
 - 重 症 : 3 週間の入院加療を必要とするもの以上
 - 死 亡 : 医師の初診時に死亡が確認されたもの

3 その他

- ・ 熱中症を予防するには、暑さを避け、こまめに水分を補給し、急に暑くなる日には注意することなどが必要です。なお、高齢者は温度に対する皮膚の感受性が低下し、暑さを自覚できにくくなるので、屋内においても熱中症になることがありますので注意が必要です。
政府では、国民へ熱中症に対する注意を呼びかけるとともに、下記の HP で熱中症の情報を提供しています。
- ・ 環境省熱中症情報
(http://www.env.go.jp/chemi/heat_stroke/)